広域連合議会臨時会傍聴記

地方政治クリエイト 伊藤 秀昭

連合議会は成長のエンジンたれ

東三河8市町村による東三河広域連合議会の臨時会が3月30日、豊橋市議会議場で開かれた。

◎これが広域連合だ

いつもの豊橋市議会議場の風景が大きく変わった。議長席には選出された豊橋市議の近田明久氏。中央演壇の右横には豊橋市長の佐原光一広域連合長、その横に3人の副広域連合長が座る。山脇実豊川市長、稲葉正吉蒲郡市長、穂積亮次新城市長。

左側には同じく副広域連合長の鈴木克幸田原市長、横山光明設楽町長、尾林克時東栄町長、伊藤実豊根村長。

そして議員席には最前列右側に東栄町の柴田吉夫氏、平林光子氏。左側に豊根村の山下喜代治氏、関清文氏。

前列2列目には右から新城市の山口洋一氏、下江洋行氏、鈴木達雄氏。そして田原市の渡会清継氏、彦坂久伸氏、杉浦文平氏、設楽町の金田敏行氏、松下好延氏。

その後の列と最後列には豊橋市の星野隆輝氏、山田静雄氏、豊田一雄氏、鈴木博氏、古関充宏氏、佐藤多一氏、豊川市の石原政明氏、榊原洋二氏、太田直人氏（副議長）、小林琢生氏。蒲郡市の鈴木貴晶氏、大場康議氏、波多野努氏。いずれも各市町村議会から選出された26人。

そうそうたる陣列、堂々たる布陣である。これが広域連合だ。

◎連合長の所信表明

佐原連合長は「この東三河広域連合が、地方への新しい人の流れをつくり、人口減少と東京一極集中の是正を進める、これからの広域連携のモデルとなるよう、『東三河はひとつ』を合言葉に地域の力を結集して、全力でまい進していく」と力説。

そして①新たな広域連携事業の展開による「地域力の向上」、②地方分権改革による「自立力」の向上、③事務の共同処理による「行政遂行力」の向上―の3つの取り組みの基本方針を明確にし、「将来にわたって『成長する広域連合』を目指してまいります」ときっぱり。

佐原豊橋市長は「緊張しました」と終了後、汗をぬぐっていたが、「器が人をつくる」というが、連合議会での同氏は、いつもより大きく、堂々と見えた。

◎活発な質疑

初の議会であり、議長の選出、座席の指定、会議規則、事務局の設置から一般会計予算、広域計画などたくさんの議案が提出され、議決された。

それらについて3人の議員から質疑があった。

豊田一雄氏（豊橋）は総合的に住民福祉の増進を図ろうとする市町村と、特定の事務事業を行う東三河広域連合とは、財政の公表という面からも重要業績評価指標を明確にし、マネジメントサイクル（PDCA）を回していく事が重要であるはずだと主張。「その認識を伺う」と斬り込んだ。

さらに豊田氏は国が進める公会計基準による財務諸表を明らかにしていけば広域連合のスケールメリットを一目瞭然（りょうぜん）にすることができるとし、成長する広域連合のためにはこれらに積極的に取り組むべきだと持論を展開した。

石原政明氏（豊川）は「広域連合の発足が1年遅れた要因の1つに住民への周知不足がある、今後どのような広報戦略をとっていくのか」と質問した。

広域連合規約が8市町村議会で議決された昨年末、豊川市では「丁寧な住民説明」という付帯決議が付けられたが、それを反映した質疑だった。

また星野隆輝氏（豊橋）は、構成市町村との連携の在り方や県、経済会などとの連携についてただした。

◎活発な議論こそ成長のエンジン

初めての連合議会は上程された議案質疑で終始したが、今後は一般質問などで活発な議論を期待したい。奥三河の過疎の深刻な問題提起が豊根村の議員からされ、日本一の農業都市＝田原市からこれからの農業についての問題提起があったり、東三河の広域交通網について各市町村から質問が出たりすれば、東三河の共通課題を身近な問題として、共有できることになっていくはずである。

成長する広域連合―。何度も議場で、この言葉が飛び交った。「広域連合を成長させるエンジンは何か」。それこそが広域連合議会ではないだろうか。侃々諤々（かんかんがくがく）の活発な議論を期待したい。

「広域連合の発足までこぎつけた。これからはその結果が問われていく」（金田事務局長）。

新年度とともに広域連合の号砲は鳴った。